

在外研究員として、環太平洋地域の土壌地理研究のため10月3日オーストラリア及びニュージーランドに出張され、11月28日帰国された。正井先生は5月20-25日太平洋学術協会第2回中間会議出席の為、グアム島に、また9月3日より10日まで大学院生を引率して韓国へ出張された。(貝山記)

## 学 会 関 係

日本地理学会1973年度春季大会は都下小金井市にある東京学芸大学を会場にして4月4日～7日の4日間(6,7日は巡検)にわたって開催された。一般発表は119件、巡検は埼玉県東部(日帰り)、栃木県中部(1泊)、富士山麓(1泊)の3班であった。このうち富士山麓巡検は本学の浅井辰郎、浅海重夫、正井泰夫の各先生が案内者に加わって行われた。

日本地理学会秋季大会は11月10日～14日(12,13,14日は巡検)の5日間にわたって広島大学を会場にして開催されたが、人文地理学会、地理科学会との共催で行われたためか、シンポジウムの他一般発表は150件に達し、盛大であった。シンポジウムは、侵食面、アジアにおける「緑の革命」の問題点、土地の区画の3件、巡検は芸南沿岸(日帰り)、中国山地(1泊)、吉備路(1泊)、西四国(2泊)の4班が行われた。本学関係者による一般発表のタイトルは次の通りである。

浅井辰郎：アイスランド酪農業の生態学的計算

正井泰夫：冬の都市気候景観からみた日本都市の地域差

栗原尚子\*：ラテンアメリカの大都市におけるUrban Fringeの形成過程——メキシコシティにおける調査事例報告

この他に式正英先生はシンポジウム「侵食面」の座長をつとめられた。(内藤記)

\* 第16回生